

第97期 報告書

平成20年4月1日 ▶ 平成21年3月1日まで

B U S I N E S S  
R E P O R T

# 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げます。  
ここに小松精練株式会社の第97期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の業績についてご報告申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、前期から続く原油・原材料価格の急騰に始まり、とりわけ第3四半期以降は米国のリーマンショックに端を発した未曾有の全世界規模に及ぶ金融危機の実体経済への波及、急速な円高による輸出の減少等の影響により、企業業績の大幅な悪化、倒産の増加、設備投資の減少、失業者の急増など極めて深刻な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは「One（ワン）小松精練」の方針を掲げ、グループ企業の危機感の共有と迅速な意思決定、とりわけ事業の選択と集中を進め、環境に左右されない強固な収益基盤の確立に努めてまいりました。

特にグループ間に加え、産地企業並びに産官学との連携による技術・商品開発体制の強化と深堀り、国内市場のみならず欧州、中東、中国市場など重点市場を中心とした市場の深耕及び新規用途開拓による市場の拡大に加え、製品事業への経営資源の集中投入など重点施策を推進しました。同時に原材料の代替や調達ルートの変更、製造方法の見直し、グループ内での燃料・ユーティリティの共有によるエネルギーの有効活用など、積極的な原価低減による収益基盤の強化に努めました。また、グループ事業の全体最適を図り、不採算事業からの撤退、事業の統廃合、M&Aの実施による事業拡大など積極的な事業構造の改革を進めてまいりました。

しかしながら期前半での燃料・原材

料価格高騰の影響や期後半の事業環境の激変、円の独歩高による海外売上高の減少等により、当連結会計年度の売上高は39,188百万円（前期比2.6%減）、経常利益は1,418百万円（前期比15.9%増）、当期純利益は893百万円（前期比7.0%減）となりました。この業績を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、普通配当は1株当たり6円とさせていただき、中間配当金と合わせた年間配当金は1株当たり12円となりました。

今後におきましても、米国経済の悪化による影響は世界規模で広がり、不況の長期化は避けられないことが予想されますが、当社グループは「One小松精練」の方針のもと「100%お客様志向の会社」を目指し、更なる企業価値の向上に努める所存であります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

代表取締役会長 中山 賢一

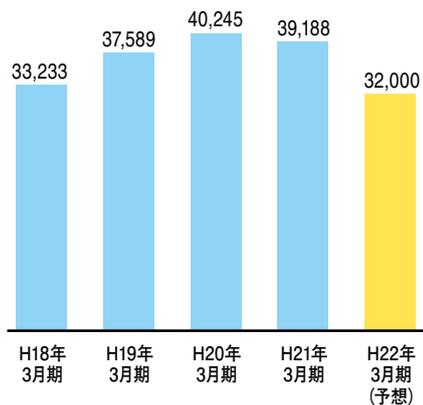
代表取締役社長 蓮本 英信



売上高

(百万円)

■ 売上高 (通期)

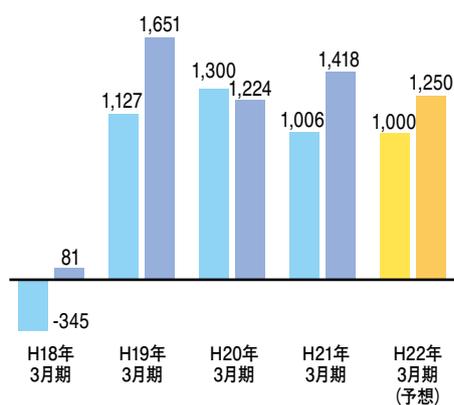


営業利益・経常利益

(百万円)

■ 営業利益 (通期)

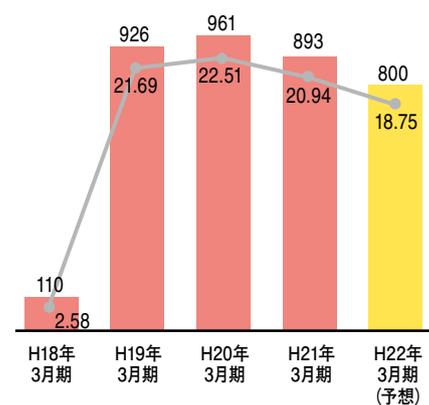
■ 経常利益 (通期)



当期純利益・1株当たり当期純利益

■ 当期純利益 (通期) (百万円)

● 1株当たりの当期純利益 (通期) (円)

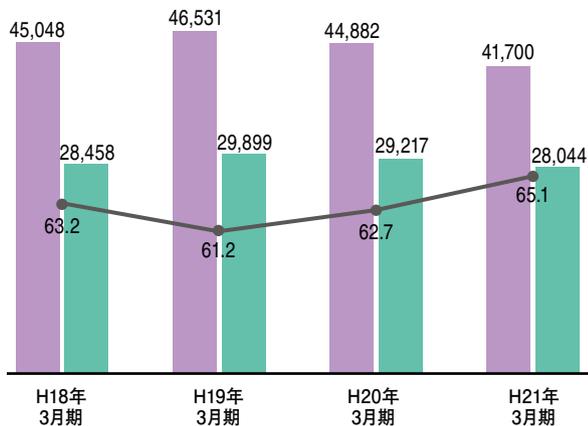


総資産・純資産・自己資本比率

■ 総資産 (百万円)

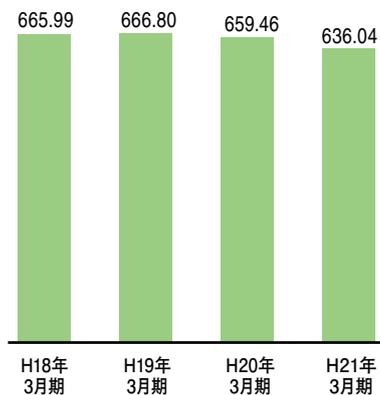
■ 純資産 (百万円)

● 自己資本比率 (%)



1株当たり純資産

■ 1株当たり純資産 (円)



## 営業の概況

当連結会計年度の繊維業界は、燃料・原材料価格高騰による製造コストの異常な上昇に加え、10月以降の経済環境の急速な悪化により非常に厳しい状況の下で推移しました。

このような環境の中、当社グループは「One(ワン)小松精練」の下、グループの高密度連携強化と全体最適を推進し、事業の効率化と選択と集中の強化を図りました。具体的には、製品事業の拡大のため株ヤマトヤの買収、グループ再編による事業の効率化、グループ間のエネルギーの共有化などを実施し、強固な収益基盤の確立に努めました。

以上の結果、売上高については、期後半の世界的な景気後退の影響を大きく受け、衣料ファブ

リック・資材ファブリック共に売上高は前期比減少しました。また、製品部門は事業拡大を進め、前期比大幅に増加し、その他事業の売上高を含めたグループ全体の売上高は39,188百万円（前期比2.6%減）となりました。

収益面については、小松精練（蘇州）有限公司の収益改善や製品事業拡大による増益はあったものの、期前半の燃料・原材料の高騰によるコストアップや、期後半の急激な環境変化による売上高の減少の影響を受け、グループ全体の営業利益は1,006百万円（前期比22.6%減）となりました。また、経常利益は資金運用政策の転換により、1,418百万円（前期比15.9%増）となりました。

営業の概況		前期比
■ 売上高	39,188 百万円	△ 2.6%
ファブリック部門	35,774 百万円	△ 7.7%
製品部門	2,699 百万円	+184.7%
その他	715 百万円	△ 0.7%
■ 営業利益	1,006 百万円	△ 22.6%
■ 経常利益	1,418 百万円	+15.9%

## 次期の見通し

今後の見通しについて、米国での金融危機に端を発した世界的な規模での不況の長期化は避けられず、低調に推移するものと思われます。繊維業界も、円高の影響による輸出環境の悪化や先行きに対する不安感の増大による内需の低迷など、かつてない厳しい局面が継続すると予想されます。

このような状況下、当社グループにおいても衣料ファブリック及び資材ファブリックとも量的減少による減産は避けられず、“量より質”の方針の下、価格競争力の高い、採算性を重視した選別受注とフレキシブルな生産体制を構築するとともに、商品政策の高感性、高機能の更なる高度化に重点をおき、商品開発及び新規市場開拓のため積極的に経営資源の投入

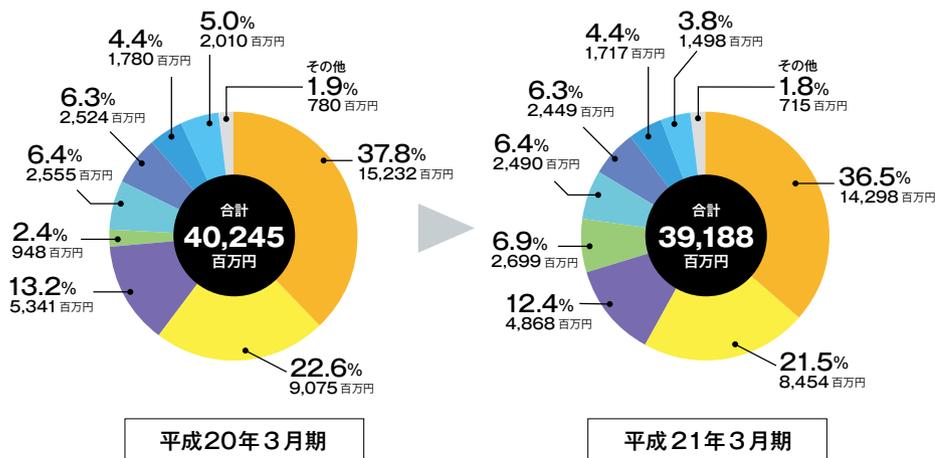
を図っていきます。同時に、製造段階でのロスの排除やフレキシブルな生産体制の整備によるローコスト化、燃料及び原材料の最適な調達ルートの開拓などを実施し、原価低減に取り組みます。また、環境対応を志向した商品開発や製造工程の構築など、次の飛躍の為の体質強化を行っていきます。

これらの取り組みを、グループ一丸となり推進することにより、平成21年度（平成22年3月期）の業績を次の通り見込んでいます。

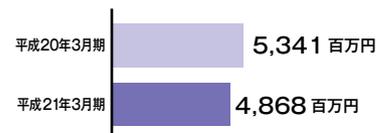
次期の見通し		前期比
■ 売上高	32,000 百万円	△ 18.3%
■ 営業利益	1,000 百万円	△ 0.7%
■ 経常利益	1,250 百万円	△ 11.9%
■ 当期利益	800 百万円	△ 10.5%

## 事業別売上状況

平成20年4月1日から平成21年3月31日



### ■ リビング



アレルバスター等、高性能ファブリックや小松精練（蘇州）生産の防災カーテンは前期に続き伸長しましたが、国内リビング市場の大きな落ち込みで当分野全体では前年比△8.9%となりました。

### ■ 製品



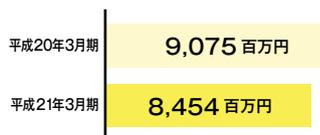
水着をコアとしたアパレルの(株)ヤマトヤをグループ会社としてM&Aを行ったことと、製品染めビジネスが拡大した事により、前年比+184.7%となりました。

### ■ ファッション



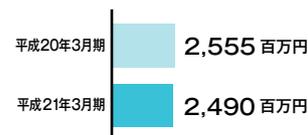
昨年より販売開始した「ルカーノ」、「テクノビンテージB」、「BB」などの高感性ファブリックが順調に拡大し収益の根幹を築きましたが、汎用品のポリエステル商品が中国に代表される後進国に置き換えられ前年比△6.1%となりました。

### ■ スポーツ



機能一辺倒なスポーツ衣料分野に当社の強いファッションファブリックを投入することでゴルフウェア分野中心に売上げを伸ばすも、ファッション分野同様に海外向けの機能加工汎用品も、為替の影響と台湾などの後進国の台頭により、前年比△6.8%となりました。

### ■ 車両



上期は、アレルバスター加工のカーシートの拡大やDIMAファブリックに依る機能及びファッション性の高いシートカバーが順調に推移するも9月以降の世界的リセッションにより、自動車産業の生産調整の影響を受け通期としては前年比△2.5%となりました。

## 事業別売上状況

平成20年4月1日から平成21年3月31日

### ■ 生活資材



工業ワイピングクロス等、差別化機能素材は順調に推移しましたが、パイピング・テープなどの服飾資材が減少し前年比△3%となりました。

### ■ 医療・福祉



機能ニット素材を用いた補正・矯正インナー及びテーピング等の素材は順調に推移しましたが、サニタリー向けファブリックは大きく落ち込み、前年比△3.5%となりました。

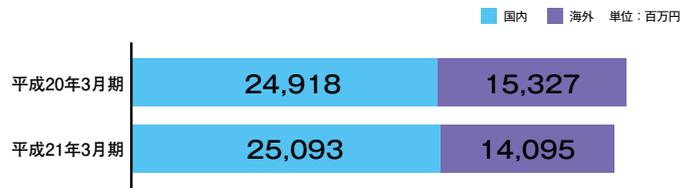
### ■ 電材その他



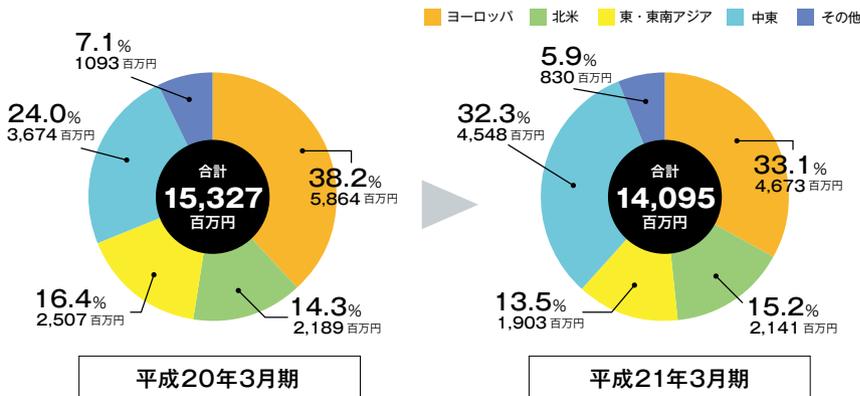
I T向け無埃衣や手袋が大きく落ち込み、前年比△25.5%となりました。

## 消費地別売上状況

平成20年4月1日から平成21年3月31日



## 海外売上高の内訳



### ■ 国内売上高

国内売上高は9月までは順調に推移してきましたが、10月以降医療用テーピング材を除き、各分野での消費不振や生産調整で減少となるも、通期では裯やマトヤのM&Aも有り前年同期比7%増の25,093百万円となりました。

### ■ 海外売上高

海外売上高は欧州中心としたハイファッションの数量は拡大するも、為替の影響で邦貨換算ベースでは売上高減となりましたが、中東向け民族衣装は差別化加工に特化することで拡大しました。

また、小松精練(蘇州)有限公司の中国国内向けは拡大しましたが日本からの中国国内向けは為替の影響も有り、減少しました。この結果、前年同期比8%減の14,095百万円となりました。



## グローバルオペレーションを推進 ▶ 2009年1月 格式高い超名門ホテルでパリ個展を開催

小松精練は2009年1月、パリの5つ星で最も憧れると言われる名門ホテル「ザ・リッツ・パリ」の一室を貸し切って、当社の最新素材を取り揃えたパリ個展を開催しました。ラグジュアリー感溢れる会場には、

フランスの超一流ブランドのバイヤー達が来場され、当社の最新素材を手に取り、熱い商談が3日間繰り広げられました。

今回の個展は、欧州市場のさらなる深耕拡大を図るため、翌月2月開催のミラノ展（ミラノショールームで年2回開催）やパリで開催される

見本市ブルミエール・ヴィジョン（PV）より先駆けて開催し、欧州のトップメゾンへ made in JAPANの素材および当社の企画力を定期的に提案するものです。リッチな空間でじっくりと時間をかけるサロン形式の商談スタイルがフランスのバイヤー達の創造力を掻き立たせ、手ごたえのある結果に結びつきました。

当社は今後も積極的に個展を開催するなどマーケティング力への強力投資によるグローバルオペレーションを推進し、海外市場の拡大を図っていきます。

## 新本社棟・多目的ホール 完成 ▶ 2009年3月

### 心を新たに、さらなる企業価値向上を目指す

平成21年3月、創立65周年を記念して、地上4階建て延べ床面積およそ3,200平方メートルの新本社・多目的ホールが完成しました。ホームベース型の建物は世界に飛び立つ拠点を意味し、建物の1階には500人収納可能な多目的ホールと、小松精練グループの最新素材や企業活動を紹介する2つのプレゼンルームがあります。2階、3階には本社部門が機能的に集約され、また4階には、弊社にお越しいただいた方はどなたでもご自由にお使いいただける、およそ300度展望可

能なラウンジ（フリースペース）があり、日本海と霊峰白山を同時に眺望することができます。

新本社・多目的ホールは、社員のを癒し、そして繋ぐ場であり、小松精練の新たな象徴と言えるものです。当社を訪れるすべてのお客様に感動をお届けし、「また訪れたい」と感じていただけるよう、この建物のもと、さらなる企業価値向上を目指していきます。



# 新商品紹介

新素材開発 & 新商品プロデュース ▶ 2009年4月

## オリンピック・メダリスト 奥野史子氏を アドバイザー・スタッフに迎える

小松精練は、グループ企業であるスイムウェアのアンテナ・アパレルメーカーの㈱ヤマトヤを通して、末端消費者からの声を反映させた機能素材の開発、及びデザインまでを提案する「2.7次産業」の事業拡大を目指しています。その第一弾として、バルセロナ五輪シンクロナイズド・スイミング銅メダリストの奥野史子さんとアドバイザースタッフ契約を結び、09年5月、奥野さんがプロデュースしたスイムウェア「NeNe FUMIKO OKUNO (ネネ・フミコオクノ)」を発表しました。

「NeNe FUMIKO OKUNO」は、「おばあちゃん、ママ、お嬢ちゃん」の3世代がそろって着用できる、快適で爽やかなイメージのスイムウェアブランドです。素材には奥野さんのアドバイズをもとに開発された、水着用撥水速乾素材「DRYSARA-EX (ドライサラ・EX)」が使用されています。今後、さらなるラインナップを充実させ、新しいウェアの企画提案を図っていきます。

▶「NeNe FUMIKO OKUNO」に関するお問い合わせ  
株式会社ヤマトヤ TEL 06-6797-7831



小松精練本社屋上に施工された「グリーンビズ」



「グリーンビズ」



「グリーンビズ・G」

屋上緑化事業に本格参入 ▶ 2009年4月

## 無灌水型屋上緑化基盤材「グリーンビズ」の開発

小松精練グループは、環境循環型企業を目指し、さまざまな環境活動、環境開発を行っています。ゼロ・エミッション化に関しては染色排水の浄化処理の際に発生する廃棄物（余剰バイオマスケイク）の有効利用についてかねてより研究を重ね、小松精練グループである㈱アースエンジニアリング及び㈱トーケンとの連携により、無灌水型・超微多孔スポンジ状セラミックス屋上緑化基盤材「グリーンビズ」が完成し、このほど屋上緑化事業に本格参入いたしました。

「グリーンビズ」は超微多孔構造のため、断熱性・通気性・透水性・保水性が高く、この「グリーンビズ」にセダム（多肉植物）類

を植栽したものが屋上緑化材「グリーンビズ・G」です。「グリーンビズ・G」は、超微多孔セラミックスに内包された水分の蒸散効果による気化冷却によって、ヒートアイランド現象を抑制する効果があるといわれ、現在、ビルや工場の屋上さらには道路、公園など、さまざまな場所に設置されています。今後は屋上緑化だけでなく、壁面緑化、水質浄化、土壌改良などの分野も視野に入れ研究を進め事業拡大を目指します。

▶「グリーンビズ」に関するお問い合わせ  
株式会社トーケン TEL 0761-21-8818

欧州で絶賛 ▶ 2009年6月

## 新デコラティブ・ファブリック「トスポーNII」

小松精練は創業以来、長年積み重ねてきた高次後加工技術を結集させ、新たに“立体染色”という技法を確立し、独特の凹凸感をもった全く新しいデコラティブ・ファブリック「トスポーNII」を完成させました。

「トスポーNII」に用いられた“立体染色”は、独自開発された特殊薬剤をナノレベルで繊維の1本1本に被膜浸透させているため、糸の劣化を抑え、素材を問わず表情豊かな凹凸感を表現することが可能です。しかも、撥水・防水・透湿などの機能加工との組み合わせ

せが可能になり、スポーツ、アウター、さらにはバッグといったファッション資材への用途展開が可能になりました。

09年2月に欧州で行ったプレワーク後、国内外問わず多くのブランドから引き合いが寄せられ、この新しい素材に手ごたえを感じています。

これからも、小松精練は世界に冠たる先端ファブリックメーカーを目指し、新鮮で驚きと感動ある素材開発を進めて参ります。



「トスポーNII」

欧州が待ち望んだ ▶ 2009年6月

## 新触感コットン・ファブリック「コットーネ-EN」

近年、小松精練が積極的に開拓している欧州市場においては、新しい風合いと質感を併せ持った天然素材が求められています。そこで、当社は合繊に対する蓄積された高度な技術と匠の知恵を融合させ、全く新しい綿及び綿複合素材「コットーネ-EN」を開発しました。

「コットーネ-EN」は一般的な綿・綿複合素材にはない、合繊ライクな風合や天日干し調のナ

チュラルなシワ感が特長で、50回の家庭洗濯後でも風合や表情（形態）が損なわれることはありません。

09年2月に欧州で行ったプレワークでは、非常に高い評価が得られ、今では新しい素材カテゴリーの1つとして位置付けられつつあります。

小松精練は、これからも市場が求める斬新な素材開発を進め、さらなるマーケットの開拓を進めていきます。



「コットーネ-EN」

小松精練杯チャレンジカップ ▶ 2008年10月

## 能美市小学校対抗サッカー大会開催 大会前に会場周辺の清掃奉仕活動を実施

平成20年10月、当社の企業理念の一つである「地球・社会に貢献する」活動の一環として、「小松精練杯チャレンジカップ・能美市小学校対抗サッカー大会」を開催し、能美市内全8校の4年生から6年生の男女170人が出場しました。また、大会に参加できない3年生以下の子どもたちにもサッカーに親しむ機会を持っていただくため、キッズサッカーを同時に開催するなど、多くの保護者の方が応援に訪れる中、さまざまな催しで会場は大いに盛り上がりました。

3回目となる今回は、大会に参加される児

童やそのご家族が気持ちよく楽しんで頂けるよう、会場となった運動公園内周辺の清掃奉仕活動も行いました。当社グループ社員とその家族およそ700名が参加した清掃では、ゴミ袋200枚以上の落ち葉が集まり、台風一過の運動公園が見違えるほどきれいになりました。

当社はこれからも、さまざまな活動を通じて、社会貢献を目指していきます。



## 未来を担う子どもたちに夢と希望を 「子供マイスターウィーク」に協賛

▶ 2008年11月

平成20年11月に開催された「子どもマイスターウィーク」は、能美市教育委員会が中心となり、子どもたちの幅広い研究や学習の成果を発表する機会を設けることで学習に対する興味や関心を高め、創造性豊かな人間形成を図る目的で実施されたものです。

期間中、小松精練は自社素材が使われている最新の商品展览展示のほか、技術開発本部が中心となり子どもたちに繊維の不思議や科学のおもしろさを伝える科学実験を行うな

ど、全面的に協力しました。

会場には能美市内の小中学校11校から約450点の科学工作作品が集まり、有識者による厳格な審査が行われ、最優秀賞である「子供マイスター賞」18名が選ばれました。受賞者には当社の最新技術である無水化染色技術で、一人一人の受賞作品をデジタルプリントしたオリジナル額を贈呈しました。

当社は勉強やスポーツを一生懸命がんばる子どもたちが、夢と希望を持って成長できるような地域貢献活動にこれからも積極的に取り組んでいきます。

## 連結貸借対照表の要旨

平成21年3月31日現在

### 資産の部

科目	金額
<b>■ 流動資産</b>	<b>23,178</b>
現金及び預金	5,526
受取手形及び売掛金	8,758
有価証券	3,850
たな卸資産	4,679
繰延税金資産	140
その他	310
貸倒引当金	△ 87
<b>■ 固定資産</b>	<b>18,521</b>
[有形固定資産]	9,944
建物及び構築物	3,868
機械装置及び運搬具	3,661
土地	2,132
建設仮勘定	15
その他	266
[無形固定資産]	370
[投資その他の資産]	8,206
投資有価証券	6,006
繰延税金資産	1,893
その他	331
貸倒引当金	△ 25
<b>資産合計</b>	<b>41,700</b>

単位：百万円

### 負債の部

科目	金額
<b>■ 流動負債</b>	<b>8,691</b>
支払手形及び買掛金	6,531
短期借入金	509
未払金	639
未払法人税等	10
賞与引当金	191
その他	809
<b>■ 固定負債</b>	<b>4,963</b>
退職給付引当金	4,406
役員退職慰労引当金	431
繰延税金負債	63
その他	61
<b>負債合計</b>	<b>13,655</b>

### 純資産の部

科目	金額
<b>■ 株主資本</b>	<b>27,849</b>
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	18,659
自己株式	△ 210
<b>■ 評価・換算差額等</b>	<b>△ 708</b>
その他有価証券評価差額金	△ 547
為替換算調整勘定	△ 160
<b>■ 少数株主持分</b>	<b>903</b>
<b>純資産合計</b>	<b>28,044</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,700</b>

## 連結損益計算書の要旨

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：百万円

科目	金額
<b>■ 売上高</b>	<b>39,188</b>
売上原価	32,758
売上総利益	6,429
販売費及び一般管理費	5,423
<b>■ 営業利益</b>	<b>1,006</b>
営業外収益	534
受取利息及び配当金	156
その他	377
営業外費用	122
為替差損	96
その他	25
<b>■ 経常利益</b>	<b>1,418</b>
特別利益	196
固定資産売却益	148
国庫補助金収入	47
特別損失	188
固定資産除却損	62
投資有価証券評価損	71
固定資産圧縮損	42
その他	12
<b>■ 税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,426</b>
法人税、住民税及び事業税	31
法人税等調整額	507
少数株主損失	7
<b>■ 当期純利益</b>	<b>893</b>

## 連結株主資本等変動計算書の要旨

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計		
平成20年3月31日残高	4,680	4,720	18,320	△ 200	27,521	559	76	635	1,060	29,217
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 554		△ 554					△ 554
当期純利益			893		893					893
自己株式の取得				△ 10	△ 10					△ 10
その他						△ 1,106	△ 237	△ 1,344	△ 156	△ 1,501
連結会計年度中の変動額合計			338	△ 10	328	△ 1,106	△ 237	△ 1,344	△ 156	△ 1,172
平成21年3月31日残高	4,680	4,720	18,659	△ 210	27,849	△ 547	△ 160	△ 708	903	28,044

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：百万円

科 目	金 額
<b>■ 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,964</b>
税金等調整前当期純利益	1,426
減価償却費	1,570
引当金の増減額 (減少：△)	△ 1,058
売上債権の増減額 (増加：△)	1,991
仕入債務の増減額 (減少：△)	△ 2,820
たな卸資産の増減額 (増加：△)	826
法人税等の支払額	△ 144
その他	174
<b>■ 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 248</b>
固定資産の取得による支出	△ 1,745
固定資産の売却による収入	163
有価証券の取得・売却 (取得：△)	1,297
投資有価証券の取得・売却 (取得：△)	△ 226
その他	262

科 目	金 額
<b>■ 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 686</b>
短期借入金の純増減額 (減少：△)	△ 121
配当金の支払額	△ 554
その他	△ 10
<b>■ 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 37</b>
<b>■ 現金及び現金同等物の増減額 (減少：△)</b>	<b>992</b>
<b>■ 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>6,485</b>
<b>■ 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>7,477</b>

## 貸借対照表の要旨

平成21年3月31日現在

## 資産の部

科 目	金 額
■ 流動資産	20,277
現金及び預金	4,295
受取手形及び売掛金	7,262
有価証券	3,850
たな卸資産	3,569
関係会社貸付金	962
繰延税金資産	133
その他	287
貸倒引当金	△ 83
■ 固定資産	17,124
[有形固定資産]	6,666
建物及び構築物	2,703
機械装置及び運搬具	2,218
土地	1,516
その他	227
[無形固定資産]	102
[投資その他の資産]	10,356
投資有価証券	4,066
関係会社株式	3,941
関連会社長期貸付金	220
繰延税金資産	1,862
その他	279
貸倒引当金	△ 12
資産合計	37,402

単位：百万円

## 負債の部

科 目	金 額
■ 流動負債	6,604
支払手形及び買掛金	5,339
未払金	478
賞与引当金	178
その他	608
■ 固定負債	4,625
退職給付引当金	4,174
役員退職慰労引当金	401
その他	49
負債合計	11,230

## 純資産の部

科 目	金 額
■ 株主資本	26,719
資本金	4,680
資本剰余金	4,720
利益剰余金	17,528
自己株式	△ 210
■ 評価・換算差額等	△ 548
その他有価証券評価差額金	△ 548
純資産合計	26,171
負債純資産合計	37,402

## 損益計算書の要旨

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：百万円

科 目	金 額
■ 売上高	30,279
売上原価	24,997
売上総利益	5,281
販売費及び一般管理費	4,515
■ 営業利益	766
営業外収益	446
受取利息及び配当金	244
その他	202
営業外費用	73
為替差損	73
その他	0
■ 経常利益	1,139
特別利益	195
固定資産売却益	148
国庫補助金収入	47
特別損失	147
固定資産除却損	22
投資有価証券評価損	71
固定資産圧縮損	42
その他	11
■ 税金等調整前当期純利益	1,187
法人税、住民税及び事業税	13
法人税等調整額	448
■ 当期純利益	725

## 株主資本等変動計算書の要旨

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成20年3月31日残高	4,680	4,720	17,358	△ 200	26,559	555	27,114
当期変動額							
剰余金の配当			△ 554		△ 554		△ 554
当期純利益			725		725		725
自己株式の取得				△ 10	△ 10		△ 10
その他						△ 1,103	△ 1,103
当期変動額合計			170	△ 10	160	△ 1,103	△ 942
平成21年3月31日残高	4,680	4,720	17,528	△ 210	26,719	△ 548	26,171

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-176-417
URL	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
1単元の株式の数	1,000株
公告の方法	電子広告の方法により行います。 <a href="http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html">http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html</a> 上記ホームページの「電子公告」をクリックして下さい。 ただし、電子広告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部

### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

### 単元未満株式の買増・買取について

単元未満株式（1,000株未満の株式）をご所有の株主様は、単元株に不足する数の株式を当社から買増して単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式の買取を当社にご請求することもできます。ご希望の場合、証券会社等の口座管理機関に口座を開設されている株主様は証券会社等宛に、特別口座にて管理させていただいている株主様は、特別口座の口座管理機関である住友信託銀行宛（上記の電話照会先）にお申し出ください。なお、手数料はいずれも無料となっております。

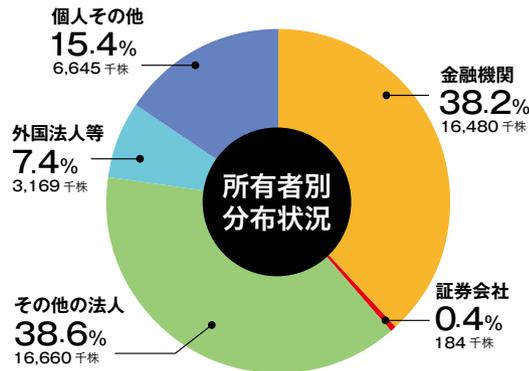
## 発行済株式数・株主数

発行済株式数 ● 43,140,999 株  
株主数 ● 3,214 名

## 大株主及び持株比率

株主名	持株数	持株比率
東レ株式会社	2,649 千株	6.14%
株式会社北國銀行	2,113 千株	4.89%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	1,559 千株	3.61%
第一生命保険相互会社	1,550 千株	3.59%
日本生命保険相互会社	1,467 千株	3.40%
クレディ スイス ユーロ ピービー クライアント エスエフピー ブイエル	1,328 千株	3.07%
小松精練松栄会	1,282 千株	2.97%
株式会社北陸銀行	1,263 千株	2.92%
三菱商事株式会社	1,250 千株	2.89%
住友信託銀行株式会社	1,230 千株	2.85%

## 所有者別分布状況



## 会社の概況

商号	小松精練株式会社
設立年月日	昭和18年10月8日
資本金	46億8,042万円
本社	〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地
本社工場	同上
美川工場	石川県白山市鹿島町1号7番地1
大阪営業所	大阪市中央区本町2丁目5番7号（大阪丸紅ビル4階）
東京営業所	東京都中央区銀座3丁目9番7号（トランス銀座ビルディング8階）
北陸営業所	石川県能美市浜町又167番地（小松精練株式会社本社2階）
上海事務所	中国・上海市延安西路2200号（上海国際貿易センター1913号）

## グループ企業

小松精練(蘇州)有限公司 染色加工	中国・江蘇省蘇州市
株式会社ケイズテック 車輻内装材製造	石川県白山市
ケーエス染色株式会社 染色加工	石川県能美市
株式会社カ・インバナ 繊維製品の企画製造販売	石川県能美市
株式会社ヤマトヤ 繊維製品の企画製造販売	大阪府大阪市
株式会社コマツインターリンク 包装・倉庫・運送	石川県能美市
小松エージェンシー株式会社 保険代理店	石川県能美市

## 役員・執行役員

平成21年6月26日現在

役職	氏名
代表取締役会長	中山 賢一
代表取締役社長	蓮本 英信
取締役専務執行役員	高木 泰治
取締役専務執行役員	石倉 幸雄
取締役常務執行役員	池田 哲夫
取締役上席執行役員	橋爪 諭
取締役上席執行役員	山竹 俊樹
取締役執行役員	奥谷 晃宏
取締役執行役員	尾野寺 賢
取締役	橋本 和司
取締役	浅葉 修
取締役	尾川 勝也
監査役	竹内 和也
監査役	本谷 佑久
監査役	香川 裕行
監査役	割出 雄一
執行役員	中村 正一
執行役員	折本 忠
執行役員	中山 大輔
執行役員	向 潤一郎
執行役員	米谷 俊泰



小松精練株式会社

[www.komatsuseiren.co.jp/](http://www.komatsuseiren.co.jp/)